

# 第1回附特就職支援ネットワーク会議議事録

日時：平成28年6月9日(木)9:30～11:40

会場：熊大教育学部附属特別支援学校 研究室

## 1 学校長挨拶

4月の2度の地震におきましては、皆様大変だった事とお見舞い申し上げます。

このような中、「キャリア教育・就労支援等の充実」の取組において、就職支援ネットワーク会議を設置できたこと、また、委員を快く引き受けていただいたことに心より御礼申し上げます。

文部科学省では、障がいのある児童生徒等の自立と社会参加の加速化に向けて一連の事業をモデル校で実施しています。その中でも本校が受託しました本事業は、高等学校段階におけるキャリア教育・職業教育の推進を図るものです。

この事業に関しましては、文科省の3ヵ年期間の3年目の年と聞いております。全国の附属特別支援学校では7校がこの事業の委託を受けておりますが、本校は最終年度に委託を受けることとなりました。このことは異例であり、昨年度まで本校が取り組んだコミュニケーション能力を育む教育課程の在り方についての研究成果を認めていただいた結果と思っております。また、本校の個別の教育支援計画作成のために行っている支援者ミーティングについても評価いただけたのではないかと考えております。本事業の委託を受けまして就労支援コーディネーターの配置も可能となった次第です。

このネットワーク会議を通じて、委員の皆様方からたくさんのご意見をいただければと思っております。本日は授業見学、本校の現状をお伝えしてこれからの連携を深める第一歩となればと思っております。1年間どうぞ宜しくお願い致します。

## 2 委員紹介

- ・熊本大学教育学部特別支援教育学科教授 干川委員
- ・熊本県中小企業家同友会副代表理事 吉田委員
- ・黒髪しょうぶ苑苑長 渡邊委員
- ・熊本障害者職業センター主任 小川委員
- ・くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁主任支援ワーカー 原田委員
- ・同センター職場定着支援員 田畑委員
- ・熊本ヤングハローワーク就職促進指導官 岡村委員(欠席)
- ・社会福祉法人ライン工房統括施設長 熊川委員
- ・熊本市障がい者相談支援センターじょうなんセンター長 園田委員
- ・アス・トライ就労移行支援事業所代表 山田委員
- ・チャレンジめいとくの里ゆめくらしワークス事業部サービス管理責任者 中田委員

- ・熊本市発達障がい者支援センターみなわ相談員 中原委員
- ・熊本県教育庁教育指導局特別支援教育課指導主事 中山委員
- ・社会福祉法人三気の会相談支援事業所たんぽぽ私学特別相談員 浦田委員

#### ・事務局

学校長（坂下），副校長（牛野），教頭（税田），PTA会長（古川），研究主任（瀬田），特別支援部長（田中（欠席）），進路指導主事（永井），教務主任（澤（欠席）），就職支援コーディネーター（橋本）

### 3 会長選出

【会長：熊本大学教育学部特別支援教育学科教授 干川委員】

### 4 会長挨拶

私は、特別支援教育にずっと携わってきております。この学校で校長を務めさせていただきました。そのこともあり今回就職支援ネットワーク会議の委員の話をいただいたと思っております。

御存知の方もいらっしゃると思いますが、熊本大学の附属特別支援学校では平成16年から支援者ミーティングを始めており、12年支援者ミーティングの活動を行っております。当初は個別の教育支援計画の作成と文科省も言い始めた時期で、当時の設置校長会などでいろいろな資料を出していますが、「(支援者ミーティングに関して)できそうだが、できない。先生方が福祉や医療に伺ってまとめてあげなさい。」といったマニュアルが出されていたこともありました。当時、支援者を集めて会議を始めたのは熊大附属特別支援学校が初めてだったのではないかと思います。設置校長会の会長も研修で熊大にこられたときに、「支援者ミーティングができれば理想だよね。」と話されていたが、「熊大附属では昔からやっていました。」と自慢をしたこともあります。

今回、事業の受託に当たり、支援者ミーティングが文部科学省によって認められたということはとても重要なことだと思います。言い方を変えると“文科省の10年先を走っていた”と言っても良いと思います。支援者ミーティングの良いところは本人のもっている夢や希望を大切にしていきながら、それを実現させるために、どう連携協力をしていくか、そういう体制を作っていくかが重要になると思われます。

現在、いろんな支援学校がキャリア教育ということで文科省の指定を受けたり活動をしたりしていますが、どちらかというと、施設や作業所で話を伺って、「作業所に勤めるためにこういうことをしてください。」「施設に入所するためにこういうことをしてください。」といった話を聞いて、学校がそれを下請けしていくような研究が多くて、子どもを社会に当てはめるような研究が多かったと思います。熊大附属特別支援学校が取り組もうとしている研究は、「社会をどう変えていくか。」ということだと思います。子どもを社会に当てはめるのではなく、子どもの夢を実現するために社会をどう変えていくか。そのためには、たくさんの人たちの連携協力が必要です。今回、これだけの方がここに集まっ

ていただくということは、とても重要な連携協力をしていく手立てだと思います。ぜひ、子どもの夢とか希望を実現するためにはこういったことが必要という意見をおっしゃっていただけたらと思います。

最近では陶工や木工以外にもサービス産業に就職する生徒が増えてきており、社会の状況も大きく変わってきています。学校教育で基礎的な知識以外にも、応用する力が求められるようになってきています。習得した知識技能をどのように活用するのか、そのために自立や社会参加に求められる育成すべき資質能力の整理、ワークキャリアだけでなくライフキャリアの視点もふまえたキャリア教育の充実、あるいは学びの質を高めるための授業の開発や工夫が必要となってきました。

今回、熊大附属特別支援学校の方から1年間の事業ではありますが、これまでの実践に基づいた興味深い様々な提案があると期待しています。委員の皆様におかれましては、附属特別支援学校の卒業生が夢とか希望の実現に向けて連携するために、またそのシステムの構築のために忌憚のないご意見を伺いますのでご協力をお願い致します。

## 5 日程説明

## 6 授業見学

※別紙参考資料

～休憩～

## 7 協議

○本校の現状等と課題について【瀬田】

※資料参照

○フリートーク

干川会長：

本校から説明のあった現状と課題についてご意見がありましたら、どんなことでもかまいませんのでお願い致します。

中小企業同友会 吉田委員

この研究で学校から社会に馴染むために、コミュニケーション教育に取り組みられておられますね。今回の熊本地震で避難所にいろんな方が集まっていました。私も避難所にいて事業所の方と生活を共にしました。生活の場面でも就労の場面でもコミュニケーションの大事さが分かりました。しかし、あまり周りを気にしすぎるのもよくなく、気にしすぎることで逆にダメになってしまうこともあるように思えます。的確なコミュニケーションも必要ですが、「いい意味での鈍感さ」が必要で、「気にしない、おおらかさ」がある人の

方がどんな場所でも落ち着いておられました。仕事もできるように感じます。

今回は同友会として参加していますが、今後の経済について、現在各会員にアンケートをとっております。地震直後に福島や宮城の各地の専門家が来られ話されたことは「今回は津波とは違った地震だが、今後の経済の状況はあまり変わらないだろう」「今後は経済の波が3回くる。震災直後の3か月後に直接的な被害で倒産を余儀なくされる企業が多くなる。次に、現在はいろいろな政策や融資制度などが行われているが2年後や3年後にその支払いが始まる。以前のような支払い経路が戻り、売り上げの確保ができていないと支払うことができず、3年後に倒産する企業が増える。次は5年後、現在の福島などでは、これまで生き残ってきた企業の後継者がいないということで倒産につながってしまう。地震により県外に移り住むことを余儀なくされ、若い人が残らないことが原因と思われる。」と3つの波について話されておりました。それを踏まえて、県や市に「工事や再建を県内の企業を使って復興する」提案を行っています。県外から業者を入れることによって1、2年は一時的に人口が増えるが、時期が過ぎると一気に人口が減ってしまい経済に波ができることが考えられます。

今回、避難所で中学生、高校生がボランティアに参加され、おじいさんおばあさんに「有難う」と言われる機会ができたそうです。現在まではそういった機会が少なく、今まで何気なく住んでいた熊本を好きになってくれたのではないかと思います。熊本に残りたいという意識が高まってきたように思われ、高卒、大卒向けの説明会を開いて企業が若い人が熊本で働ける環境を作りたいと思っています。ワークシェアを含めて企業での連携を行っていきたくと思っています。「震災前よりもいい熊本になるようにしていきたい。」同友会の中の障がい者雇用委員会でも新たに同友会の中でワストップで全てが解決できるように、企業と障害者の方のマッチングがうまく行くようにしていきたいです。同友会の理事などにもぜひ参加してもらいたいと思います。

## 瀬田

昨年度までコミュニケーションに取り組み、小学部では「人への意識」中学部では「相手への思い」高等部では「実際の場面で活用できるロールプレイ」を中心に行ってきました。とっさの時の臨機応変な対応に関しては課題として感じています。好ましい伝え方、言い方については学習してきたので、今後はいい意味でのおおらかさ等にも取り組んでいきたいと思っています。

## くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁 原田委員

進路先との移行支援の可視化に関して、卒業のない学校ということで素晴らしい取り組みをされていると思います。就職後のフォローアップも先生達に一生懸命やっただけだと感じています。10年後の将来について支援者ミーティングに楽しく参加させていただいていますが、その10年を先生方はどのように追っているのか具体的に教えてほしいと思います。

すずかけの会などで情報共有をされているとは思いますが、先生方の異動がある中でどのように情報共有をされているのでしょうか。また、関係機関との連携についてもどのように関わりをもって取り組まれているのかを知りたいと思います。例えば生徒の課題を見

つけられたときに直接先生たちが関わられているのか、地域の支援機関と一緒に解決していくのかなどを具体的に教えてほしいです。

## 瀬田

以前は、本校職員は長期の勤務をする者が多く、マンパワーで対応することが多かったです。また、近年異動などで職員の入れ替わりが多くなってきました。そのため、今年度はシステム化を考えています。

## 永井

現在は、同窓会の会員が還暦を迎える方を含め475名いらっしゃいます。卒業後に同窓会に入っただき、その中で進路先や住所などの管理を現在行っている状況です。しかし、今後は職員の移動があるため顔見知りの職員がいなくなることが考えられます。だからこそすずかけの会で管理をしていく必要があると考えています。一つは10年という目標の中で、すずかけの会の役員に10年単位で入っただき組織を作っています。卒業後3年間は重点的に学校の職員でフォローアップ体制を作れるようにし、徐々に地域の支援機関と連携しながら移行していきたいと考えています。10年後には完全に定着して地域への移行ができるような状況を作りたいです。今までは進路指導主事が行っていましたが、今後は全職員でできるようにシステムを作り上げたいと思います。

## 干川会長

卒業生の課題を学校の先生がフォローをしているのか、地域でフォローをしているのかというところに関してはいかがですか？

## 永井

現在、卒業後はナカポツさんや職業センターさんに協力をいただき情報交換を行いながらフォローを進めています。しかし、在学中のことを知っている先生の異動により分からないことも出てきています。すずかけの会で顔見知りになってはいるが、職場の様子が分からないこともあるので、確認作業から入っていくことになると思います。

## 牛野副校長

現在学校は50周年になり、多くの同窓生がいらっしゃいます。皆さんにとって、学校が心のよりどころになっているようです。以前は職員の体制が大学採用により勤務が長い職員が多かったのですが、現在は大学雇用の先生は1名だけで、他は、県立学校からの人事交流で来られ異動スパンも県立学校と同じになってきています。卒業された後の「顔の見える連携」というのが今後の課題と思っています。データ化をすることにより、新しく来られた職員でも就職状況が分かる仕組みづくりをする必要があり、職場定着や生活の安定などを見越して10年後をゴールに見据えた取組にしていきたいと考えております。

## 相談支援センターじょうなん 園田委員

1番の「キャリア教育の視点に基づく小学部段階からの一貫した教育支援について」で

すが、私も3年ぐらい前に、教育支援計画を作成するにあたっての支援者ミーティングに参加させていただきました。

関係者の方で夢を語ったり将来をイメージすると言われていましたが、「達成が難しかった」という意見が多かったようですね。支援計画を作るにあたり意見をもらって計画を作成したと思われませんが「達成が難しかった」部分はどのようなところが難しかったのか。また、3年ごとの目標を設定する、その間の目標はなかったのかを教えてください。

## 瀬田

「難しかった」と言われている部分は目標設定から3年後の評価でのこととあります。個別の教育支援計画においては、3年後の姿として大きく目標を立てています。小学部段階では子供が小さいこともあり、保護者も将来のイメージを描きにくいところがあります。「バスに乗れるようになってほしい」「お手伝いができるようになってほしい」という課題を挙げて取り組んでおります。3年後に達成状況だけを確認すると、家庭での取組の中ではなかなか達成することができなかった傾向が見られました。話題に挙げることは可能ですが、全ての取組についてではなく、3年後に確認をしたところ「できませんでした」「取り組めていませんでした」というところが多かったというところで、多いという風に書いております。

## 私学特別相談員 浦田委員

私は、私立の高等学校のサポートをしています。

現状を伝えると、特別支援教育が始まって10年目ということで、早期発見、早期教育、移行支援シート、個別の教育支援計画、個別の指導計画が充実してきていると思います。以前に比べるとよくなってきているが、高校3年生になっていざ就職となった段階で話をすると大慌てされるケースが多いように感じます。支援学校の場合は小学部からの流れがあるためスタンバイができていますが、一般校の場合は「なんとなく高校に入れた」とうところからスタートされて、3年生になって「進路はどうですか?」となってから大慌てするような現状です。

センター的な機能というところで、支援学校のノウハウを一般校の「障害はあるが一見普通に見えてしまうような方」の支援について、一緒に取り組めればと思っています。中央高校に貴校の担当者を一緒に学校支援に入らせていただきましたが、他の高校にも同じようにアプローチをする必要があると思われまます。また、重なるようなところがあるときは役割分担をはっきり分けて挨拶に行く必要があると思います。私の場合は無料でいつでもどこでもやっていますが、先生方による他校支援の場合は、兼務や複雑な申し込み書が必要であり、なかなか実績につながりにくいという課題もあると思われまます。事前にご挨拶のときなどに役割や手続きを一緒に説明したり、就労に関して「こういう場所があります。相談してみませんか?」と説明したりすると先生方もセンター的な機能として使いやすいと思われる。私の知らないことも多くあるので協力して行っていきたいと思っています。

支援学校の場合は小学校段階から将来を見据えているが、一般の高校の保護者の方の考え方も現在は課題と思われまます。また、小学校や中学校の先生がイメージできておらず、実は学校では成績ばかりでなく出席や課題の提出なども関わってくるため高校生になって

ドロップアウトもする可能性もあります。いざ社会人になったときに将来や働くことについて学んでいなかったということもありました。中学校や高校には現在伝えているが、センター的機能という役割で小学校も学校支援に回られると良いと思います。特に一般校に行かれる方も将来を見据えた動きの大事さを知る機会が必要で、情報をくれる場所があることが分かれば安心でき、先生方も安心されると思います。

#### **障害者職業センター 小川委員**

学校の説明を聞き、様々な教育支援が網羅されていて、「すごいな」と思っています。反面、この取組の売りはどんな特色があるのかをもっと聞きたいです。いろいろなことを含めた中で可能であればもう少し、地震を踏まえいろんな方の連携や、キャリアという視点での特色が出るのではないかと思います。

#### **瀬田**

今回、キャリア発達を支援する教育課程と就労支援の充実の関連を図りながらの実践研究を行うこととしています。小学部、中学部、高等部一貫した育成すべきコンピテンシー(資質能力)について、明らかにするとともに、その中で本人が働くだけでなく、臨機応変な力、対応力等も視野に入れながら整理を行います。それらを育むための授業、どのような学習内容で取り組むかなどについても研究を進めていきます。それらを小中高の一貫性と考え、また、社会に出るときに、「仕事を何のためにするのか」や「余暇活動」や「地域」で行う活動の楽しさなども考えることができるような資質能力の向上を図りつつ、移行支援体制や就労支援体制の明確化に取り組んでいくことが今回の研究の柱です。

#### **障害者職業センター 小川委員**

現在職業センターで就職した方のフォローをしています。地震を通して「意外と頑張ってくれた」という印象があります。発達障がいがありながらも頑張ってくれたことが今回の学生さんの中でも見えてきているだろうし、統括的にも心構えがあるといいなと思います。現実的には周りについていけない方もおられ、夢ばかりでなく現実的なところも踏まえて取り組んでいただければいいと思います。現在はネットワークができており困ったら誰かに相談することができているが、そこへの「ヘルプを出す力」を取り組まれると尚いいと思います。

#### **千川会長**

震災があったということも含めて取り組んでいただければいいですね。時間になりますのでもう一名ほど御願います。

#### **黒髪しょうぶ苑 渡邊委員**

企業の立場から話をさせてください。現在卒業生を受け入れさせていただいております。

企業側からすると、入ってこられた方はどちらかというと即戦力として仕事をしていただくところではございますが、私たちのところでは特別支援学校と近い部分もあるので、その方を支えるということができます。しかし企業側としてみれば今後システムの中で、企業側が障がい者に対して理解がない場合、どのようにフォローをしたらよいか。概要の5番目に関わることはありませんが、どのように見据えていらっしゃるか教えていただけますでしょうか。

## 永井

基本は今までも関わっていただいている縁様や職業センター様、相談支援事業所様と企業様への情報を交換というところで、サポートをさせていただこうと思います。卒業後すぐの段階では学校が中心になってサポートを行いたいと思います。卒業してすぐ支援機関にという流れもあるが、実際には支援が卒業後に切れてしまうことが多いので難しく感じます。なるべくスタート段階から徐々に地域による支援に移行をしていき、最初は学校がある程度リードしながら企業や本人様をサポートしていく体制を作っていきたいと思っております。就職する際には企業様とその付近の話をして進めていきたいと考えております。

## 千川会長

よろしいでしょうか。そろそろ終わりにしなければいけません。貴重な意見をいただきましたので、また今後これを踏まえて検討していくことになると思います。以上で意見交換を終わります。

## 8 次回案内

今回の意見を参考にしながら、教育に活かして研究を進めていきたいと思っております。

(事務連絡)

議事録はメールや郵送にて送らせていただきます。確認ください。第2回目の会議は8月24日水曜日9:30~11:30に計画しております。改めて案内させていただきます。次回は各取組について具体的に協議いただきます。第2回目は本日の説明資料2番の育成すべき資質能力と4番の就労支援の充実についてご意見いただきたく思います。宜しくお願い致します。

## 9 副校長挨拶

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、また貴重なご意見をいただきまして有難うございました。今年度4回の会議ということで、委員の皆さま方には大変お世話になります。

年明け2月に、研究成果の発表会を予定しておりますが、その際には、ネットワーク会議を発表会のプログラムに盛り込み、参加者にも連携の在り方をお見せできたらと考えて



おります。宜しくお願い致します。

現在、文部科学省では、次期学習指導要領の改訂が大詰めにかかっています。今年度内に告示され、小学校、中学校では平成32～33年度から新たな学習指導要領がスタートする予定です。新たな学習指導要領においては、教育課程企画特別部会の論点整理では、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要とされています。単に、開かれた学校づくりにとどまらず、子供たちの学校生活の核になるのが教育課程であり、その教育課程が社会の変化をしっかりと受け止め、教育課程を介して社会の方、地域の方と連携を図ることが求められています。

こういった意味から、このネットワーク会議が本校の障がいのある子供たちの社会参加、自立という目標を共有し連携するいわゆる開かれた教育課程づくりの核になる会議だと捉えています。

本日、いろいろな質問をいただきましたが、学校としましても今後しっかり整理したいと考えております。2回目以降は各論について御説明させていただきます。どうか忌憚のないご意見をいただきたく思います。本日はありがとうございました。